

科目名	建築材料Ⅱ											
科目名(英)	Building materialⅡ											
単位数	2単位			時間数		30時間		担当者		平山 文彦		
実施年度	2019年度			実施時期		前期		実務家教員 担当科目		○		
対象学科・学年	建築工学科2年											
授業概要	建築材料のうち、構造材料である木材料、コンクリート材料、金属材料(鋼材)の性質について学ぶ											
授業形式	講義: ○			演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○					コンクリートの物理的性質、機械的性質及びその特性を説明できる。						
	○					鋼材の物理的性質、機械的性質及びその特性を説明できる。						
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築材料 市ヶ谷出版											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	コンクリートの構成材料の性質(1)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	2	コンクリートの構成材料の性質(2)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	3	コンクリートの構成材料の性質(3)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	4	コンクリートの調合設計					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	5	コンクリートの欠陥					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	6	コンクリートの耐久性					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	7	セメントコンクリート製品					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	8	鉄類(1)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	9	鉄類(2)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	10	鉄類(3)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	11	鉄類(4)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	12	アルミニウムとその合金					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	13	金属の防食と防止					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	14	非鉄金属					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	15	まとめ					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験	◎										80%
	小テスト	○										10%
	宿題・レポート	○										10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。											

科目名	AutoCAD I									
科目名(英)	AutoCAD practice I									
単位数	4単位			時間数	60時間		担当者	福光 春子		
実施年度	2019年度			実施時期	前期		実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	建築工学科 2年									
授業概要	AutoCADの基本操作を学び、建築図面の作図方法を理解し、実務において効率的な設計や作図ができるようになる方法とコマンドの使い方を学習する。正しい図面の表記を学びながら作図を実践し、即戦力として活躍できるための技術を身につける。									
授業形式	講義: △			演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○		○		建築設計ツールの一つであるAutoCADの機能について学び、必要な機能を選択し使用することができる。				
		○	○			授業を通じて図面の種類を学び、図面と図面の関係性を立体的に捉え作図することができる。				
	○	○				意匠図の作図を通じて部屋の広さや高さを学び、建物の計画に応用することができる。				
	○	○				構造図面の作図を通じて木造住宅の構造を学ぶと共に、部材の名称を答えることができる。				
		○	○			授業を通して建築図面の作図手順を学び、建築計画時に応用することができる。				
テキスト・教材 参考図書	テキスト:オリジナルプリント 参考図書:超入門 建築製図(市ヶ谷出版)									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1,2	【製図の基本を学ぶ】 AutoCADについて・製図の基礎知識・基本コマンド練習					練習問題を繰り返し練習			
	3,4	【製図の基本を学ぶ】 製図の基礎知識・基本コマンド練習					練習問題を繰り返し練習			
	5,6	【製図の基本を学ぶ】 製図の基礎知識・基本コマンド練習					練習問題を繰り返し練習			
	7,8	【製図の基本を学ぶ】 製図の基礎知識・基本コマンド練習					練習問題を繰り返し練習			
	9,10	【木造住宅意匠図】 配置図兼1階平面図					授業内容の復習			
	10,11	【木造住宅意匠図】 配置図兼1階平面図					授業内容の復習			
	12,13	【木造住宅意匠図】 配置図兼1階平面図					授業内容の復習 データ提出			
	15,16	【木造住宅意匠図】 2階平面図					授業内容の復習			
	17,18	【木造住宅意匠図】 2階平面図・屋根伏図					授業内容の復習 データ提出			
	19,20	【木造住宅意匠図】 断面図					授業内容の復習			
	21,22	【木造住宅意匠図】 断面図					授業内容の復習 データ提出			
	23,24	【木造住宅意匠図】 立面図					授業内容の復習			
	25,26	【木造住宅意匠図】 立面図					授業内容の復習 データ提出			
	27,28	【木造住宅構造図】 基礎伏図					授業内容の復習			
	29,30	【木造住宅構造図】 基礎伏図					授業内容の復習 データ提出			
評価方法	(1) 練習問題を数回実施する。(2) 授業課題の提出を求める。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	練習問題	○	○				10%			
	課題提出状況				◎		30%			
	習熟度(スピードと正確さ)	◎	◎				50%			
	出席率				○		5%			
	授業態度				○		5%			
履修上の注意	出席が10回に満たない場合、提出課題が未提出の場合は履修単位を与えない。									

科目名	建築計画Ⅲ										
科目名(英)	Architectural planning and designⅢ										
単位数	2単位			時間数	30時間			担当者	今泉 清太		
実施年度	2019年度			実施時期	前期			実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	建築工学科2年										
授業概要	19世紀までは、一般に「宗教建築」に対して、「市民建築」civic architectureあるいは「公共建築」という用語があり、市壁、市庁舎、裁判所、監獄、議場、市場、広場、その他の公共施設を含めており、これに「個人建築」という分類を加えた3種に建造物を分ける慣例があった。近代では、宗教建築の重要性が落ちるのに対し、商業建築、工業建築の比重が著しく高まったほか、建物種別も多種多様になった。 その中でも、図書館 美術館 病院 高齢者施設に絞って学習する										
授業形式	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○	○				図書館施設について、歴史的背景や役割及び計画について理解している。					
	○	○				美術館施設について、歴史的背景や役割及び計画について理解している。					
	○	○				病院施設について、歴史的背景や役割及び計画について理解している。					
	○	○				高齢化施設について、歴史的背景や役割及び計画について理解している。					
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築計画(改訂版)、カラー版図説 建築の歴史 西洋・日本・近代										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	ガイダンス4-1生活圏とコミュニティ施設									
	2	4-2図書館 図書館の変遷					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	3	4-2図書館 公共図書館の役割					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	4	4-2図書館 地域図書館の計画、近代建築史					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	5	4-3美術館 美術館の計画・各室計画					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	6	4-3美術館 美術館の計画・各室計画の変遷					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	7	4-4コミュニティーセンター、公民館					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習する。				
	8	4-5確認テスト					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	9	5-1高齢社会と建築計画 5-2病院 病院の誕生					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	10	5-2病院 病院の計画					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	11	5-2病院 各室の計画					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	12	5-3高齢者施設 居住施設・各室計画					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	13	5-3高齢者施設 居住施設・各室計画					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習しておく。				
	14	5-3確認テスト					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習しておく。				
15	総括					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 期末試験に向けて復習をする					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60%以上取得すること (2)翔テスト (3)宿題・レポート提出 提出状況 など次ぎの規準で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	
	定期試験	○		◎						80%	
	小テスト	◎		◎						10%	
	宿題・レポート	○		◎				◎		10%	
履修上の注意	上記評価及び出席率60%が単位付与条件とする。										

科目名	建築法規Ⅲ						
科目名(英)	Building regulationsⅢ						
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	徳田 美穂子	
実施年度	2019年度		実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○	
対象学科・学年	建築工学科2年						
授業概要	より専門的かつ実践的な建築計画に取り組める力を養う。この授業では各制限基準、防火・避難施設、その他の関連法規について学ぶ						
授業形式	講義：○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				建築法規のそれぞれの条文を理解し、説明することができる。	
	○	○				順守すべき具体的な基準・内容を説明することができる。	
	○	○				関連法令と合わせて、建築法規に規定する事項を説明することができる。	
		○		○		実際の設計等を想定して、各自の判断で法令順守のプランニングができる。	
テキスト・教材 参考図書	・総合資格学院編 建築関係法令集 法令編						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	高さ制限1				事前連絡の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	2	高さ制限2				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	3	高さ制限3、日影				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	4	内装制限1				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	5	内装制限2				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	6	防火区画等①				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	7	防火区画等②				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	8	避難施設1(避難施設が必要な建築物)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	9	避難施設2(避難階段と特別避難階段)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	10	避難施設3				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	11	その他の法令1(建築士法)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	12	その他の法令2(建築士法、建設業法)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	13	その他の法令3(バリアフリー法、耐震改修法)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	14	その他の法令4(品確法、長期優良住宅)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	15	その他の法令5(消防法)				定期試験に向けた学習を徹底しておくこと。	
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)出席状況＋受講態度。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	◎	◎				10%
	宿題・レポート	○	◎		◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	建築設計製図Ⅲ						
科目名(英)	ARCHITECTURAL DESIGN DRAWING Ⅲ						
単位数	6単位		時間数	90時間		担当者	福田 昌彦
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	○
対象学科・学年	建築工学科 2年						
授業概要	グループで店舗併用住宅の設計に取り組む。 プランニングから作図、模型製作などを行い、最終的にプレゼンテーションを実施する。						
授業形式	講義：	△	演習：	○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				店舗併用住宅を設計することで、企画・計画・設計の段階、建築物が完成するまでの過程を学習し、説明することができる。	
	○	○				実際の敷地を見学し事例収集などを含めた調査から地域に相応しい建築計画・建築設計のプロセスを学ぶことで説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	彰国社 定番建築製図入門						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1 2 3	1、課題説明・サーベイ				締切を確認し計画的に進めてください。	
	4 5 6	2、エスキース				締切を確認し計画的に進めてください。	
	7 8 9	3、エスキース				締切を確認し計画的に進めてください。	
	10 11 12	4、エスキース				締切を確認し計画的に進めてください。	
	13 14 15	5、設計製図				締切を確認し計画的に進めてください。	
	16 17 18	6、設計製図				締切を確認し計画的に進めてください。	
	19 20 21	7、設計製図				締切を確認し計画的に進めてください。 定番建築製図入門を準備する事	
	22 23 24	8、設計製図				締切を確認し計画的に進めてください。 定番建築製図入門を準備する事	
	25 26 27	9、模型製作				締切を確認し計画的に進めてください。 定番建築製図入門を準備する事	
	28 29 30	10、模型製作				締切を確認し計画的に進めてください。 定番建築製図入門を準備する事	
	31 32 33	11、模型製作				締切を確認し計画的に進めてください。	
	34 35 36	12、各種作業(ブラッシュアップ・デザインボード作成など)				締切を確認し計画的に進めてください。	
	37 38 39	13、各種作業(ブラッシュアップ・デザインボード作成など)				締切を確認し計画的に進めてください。	
	40 41 42	14、各種作業(ブラッシュアップ・デザインボード作成など)				締切を確認し計画的に進めてください。	
43 44 45	15、プレゼンテーション				締切を確認し計画的に進めてください。		
評価方法	(1)課題の提出内容 (2)課題の提出枚数(締切後は受け取りません) ※成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題評価	○	◎	○	○		60%
	提出枚数		◎		○		40%
履修上の注意	①提出図面枚数が全体の枚数に対して7割に満たない場合 ②出席回数が授業回数の2／3に満たない場合 ①もしくは②にどちらかに該当する場合は単位を与えない						

科目名	造形学Ⅲ											
科目名(英)	ARCHITECTURAL DESIGN DRAWING Ⅲ											
単位数	2単位			時間数		30時間		担当者		古賀 俊光		
実施年度	2019年度			実施時期		前期		実務家教員 担当科目		○		
対象学科・学年	建築工学科 2年											
授業概要	建物の概要は設計図で表現される。そのため設計図を正しく読み取る力および正確に表現することが求められる。本授業では、1年時に習得した製図技術をより深めるため、あらゆる構造の建築物の図面作成に挑戦し表現力・手法・図面内容の理解を目指す。2級建築士の2次試験(製図)の対策としても位置付ける。											
授業形式	講義: △			演習: ○		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
		○				現地調査を基に敷地にあった建築物を設計することが出来る。						
		○				設計する建築物に即した資料を集めることが出来、分析することが出来る。						
		○				設計する建物のコンセプトを設定することが出来る						
		○	○			設計した建築物の各種図面(平面・立面・断面)を作図することが出来る						
		○	○			1年次に学んだ技術を使い、設計した建物の模型を作ることが出来る。						
テキスト・教材 参考図書	各種建築雑誌等											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	課題説明・現地調査					現地調査後はすぐにまとめましょう					
	2	資料集め・コンセプト設定・ラフプラン					インターネットや本・雑誌から資料を集めてください					
	3	資料集め・コンセプト設定・ラフプラン					インターネットや本・雑誌から資料を集めてください					
	4	資料集め・コンセプト設定・ラフプラン					インターネットや本・雑誌から資料を集めてください					
	5	ラフプランチェック①・図面作成					ラフプラン・デザインはとにかく手を動かしてください。					
	6	ラフプラン修正										
	7	ラフプランチェック②・図面作成										
	8	図面作成					製図の基本をしっかりと作図してください。					
	9	図面作成										
	10	図面作成										
	11	図面チェック					締切を確認し計画的に進めてください。					
	12	模型作成					作成した図面を基に模型を作成ください。					
	13	模型作成										
	14	模型チェック					締切を確認し計画的に進めてください。					
15	プレゼンテーション					しっかりと準備してください。						
評価方法	(1)複数の課題提出を行う。(2)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。(3)期限内に提出すること。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	課題提出			○				○				30%
	課題作品			○		○						60%
	提出状況			○				○				10%
履修上の注意	出席が2／3に満たない場合は、単位を認めない。											

科目名	Photoshop / Illustrator I										
科目名(英)	Photoshop / IllustratorA										
単位数	2単位			時間数		30時間		担当者		八尋 誠	
実施年度	2019年度			実施時期		前期		実務家教員 担当科目		○	
対象学科・学年	建築工学科 2年										
授業概要	Photoshop / Illustrator の基本操作を学ぶとともに、資料作成やレイアウトにおけるデザイン論を学び活用できる										
授業形式	講義： △			演習： ○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
		○	○			Photoshop の基本的操作(レイヤー関連と移動選択など)が問題なく行える					
		○	○			テーマに沿って資料を作成することができる					
	○	○	○			媒体制作に対する用語を説明できる					
		○	○			レイアウトツールの特徴的な操作を問題なく行える					
テキスト・教材 参考図書	自作の参考資料や、既存の広告媒体などを研究材料とする										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	Adobe導入					習熟が不安な操作については授業までに 操作練習しておくこと				
	2	P/Iの使い分けについて									
	3	Photoshop導入 ツール解説(選択範囲関連と利用シーン)									
	4	Photoshop ツール解説(レイヤーマスクなどの関連機能)									
	5	建築パースを用いた合成									
	6	建築パースを用いて人物を合成									
	7	建築パースを用いて光を表現									
	8	内観パースを用いて画像補正課題									
	9	Illustrator導入 フォントの選び方(書体や文字組みについて)									
	10	レイアウトとはなにか(グリッドレイアウトなどを用いた技法)									
	11	Illustrator ツール解説(ペンツールの使い方)									
	12	Illustrator ツール解説(スウォッチ関連)									
	13	Illustrator ツール解説(Photoshopと連携・リンク関連)									
	14	建築物プレゼンシート作成(レイアウト作成)									
	15	建築物プレゼンシート作成(ブラッシュアップ)									
評価方法	(1)複数の課題提出を行う。(2)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。(3)期限内に提出すること。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	課題提出		○				30%				
	課題作品	○	○	○			60%				
	提出状況		○				10%				
履修上の注意	出席が2／3に満たない場合は、単位を認めない。										

科目名	就職実務ⅠA											
科目名(英)												
単位数	2単位			時間数		30時間		担当者		各担任		
実施年度	2019年度			実施時期		前期		実務家教員 担当科目				
対象学科・学年	建築工学科 2年											
授業概要	就職活動に必要な基礎知識を備えた人材の育成 具体的には、就職活動における基礎的な振る舞いを身に着け、習慣化する											
授業形式	講義：○			演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○	○				就職活動に必要な自己分析を行うことができる						
	○	○		○		基本的な面接対応ができる						
		○				メール対応など、就職活動に必要なコミュニケーション知識がある						
	○	○				企業研究の方法を知っている						
		○				学校求人を利用するための条件を知っている						
テキスト・教材 参考図書	学校支給のGCBテキスト 就職活動ガイドブック											
授業計画	回数	授業項目・内容						授業外学修指示				
	1	就職活動における心構え / 働くということを考える 知る						就職活動ガイドブック熟読する				
	2	就職活動における心構え / 自分が働く業界の形態や常識を知る						就職活動ガイドブック熟読する				
	3	就職活動における心構え / 業界に必要なサービスとは						就職活動ガイドブック熟読する				
	4	就職活動における心構え / 業界に必要なスキルとは						就職活動ガイドブック熟読する				
	5	就職活動における心構え / 作品集の価値とは						就職活動ガイドブック熟読する				
	6	就職活動における心構え / 作品集をイメージする1						就職活動ガイドブック熟読する				
	7	就職活動における心構え / 作品集をイメージする2						就職活動ガイドブック熟読する				
	8	就職活動における心構え / 自分の作品集計画を見つめ直す						就職活動ガイドブック熟読する				
	9	履歴書 / 自己分析 自己PR						就職活動ガイドブック熟読する				
	10	履歴書 / 自己分析 得意分野 特記事項						就職活動ガイドブック熟読する				
	11	履歴書 / 自己分析を履歴書としてまとめる						就職活動ガイドブック熟読する				
	12	面接練習 / 面接の重要性 意味を知る						就職活動ガイドブック熟読する				
	13	面接練習 / 入退室の練習						就職活動ガイドブック熟読する				
	14	面接練習 / 面接練習を各自実施 履歴書の内容を話すトレーニング						就職活動ガイドブック熟読する				
	15	面接練習 / 面接練習を各自実施 履歴書の内容を話すトレーニング						就職活動ガイドブック熟読する				
評価方法	(1)出席状況 (2)受講態度・意欲 (3)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	出席状況							◎				60%
	受講態度・意欲	○		○								30%
	課題の提出	○		○								10%
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする											

科目名	インテリアコーディネーション						
科目名(英)	interior coordination						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	福田 昌彦
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	○
対象学科・学年	建築工学科 2年						
授業概要	建築を勉強する上で、インテリアの建築的側面、住まう側の人間的側面、家具などの装飾的側面における、歴史様式(スタイル)、エレメントの知識、空間スケールの感性育成は、設計かつコーディネートにおいて重要である。この授業では、カラーとスタイルにおいて基本的な知識習得をするとともに実習課題を通して理想の空間構成の方向性を見出し、図面、投影図、模型製作でのプレゼンテーション力の育成を図ることを目標とする。						
授業形式	講義: ○		演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				インテリアを構成するエレメントの種類、サイズ等を理解し、適切な空間スケールで設計が出来る。	
	○	○				インテリアコーディネートの根拠となる色彩論やスタイルについて、関連した用語の概要を説明することができる。	
	○	○				10以上の名作椅子のデザイナー名と作品について識別し、かつ特徴を説明することができる。	
		○	○			カラースキム、図面、パース作成、かつ模型を製作し、説得性高いプレゼンテーション表現することができる。	
テキスト・教材 参考図書	参考図書:「インテリアの計画と設計」彰国社、「名作椅子の由来辞典」誠文堂新光社、「ストーリーのある50の名作椅子案内」スペースワークネットワーク、「世界で一番美しい建築デザインの教科書」イクスナレッジ、「インテリアトレンドビジョン」、「新インテリアカラーコーディネート『ザ・ドア論』」トソー出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	講義①ガイダンス 演習①スケール体感				提出物あり	
	2	講義② インテリアデザインの歴史					
	3	演習② デザイナー研究				グループワークとして調査研究、レポート発表	
	4	講義③ インテリアエレメント論					
	5	演習③ ショップ・ブランド研究				グループワークとして実地調査、レポート発表	
	6	講義④ インテリア色彩論・スタイルセグメンテーション					
	7	講義⑤ インテリア業界論・トレンド情報					
	8	実習 課題発表(住宅又はショップ、イベントスペース等を設定)				グループワークとして計画推進	
	9	実習 課題製作				グループワークとして計画推進	
	10	実習 課題製作				グループワークとして計画推進	
	11	実習 課題製作				グループワークとして計画推進	
	12	実習 課題製作				グループワークとして計画推進	
	13	実習 課題製作				グループワークとして計画推進	
	14	実習 課題製作				グループワークとして計画推進	
	15	プレゼンテーション発表会				グループ毎にプレゼンテーション発表	
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。 (2)定期試験(筆記)は実施せず、下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート	○	○				10%
	演習作品		◎				20%
	実習作品		◎				50%
	プレゼンテーション	◎	◎	○			20%
履修上の注意	2/3以上の出席を下回る場合は評価に関係なく単位を与えない 宿題・レポートを合わせて2つ以上未提出、または実習作品を未提出の者は不合格とする。 担当教員が特別に許可した場合にのみ授業中のスマートフォン使用を認める。						

科目名	検定対策ゼミA(宅地建物取引士試験対策ゼミ)							
科目名(英)								
単位数	4単位		時間数		60時間		担当者	森行 美枝
実施年度	2019年度		実施時期		前期		実務家教員 担当科目	○
対象学科・学年	建築系 2年							
授業概要	宅建試験の合格も視野に、試験の問題演習を通して、建築物を取り引する不動産権利取引に関する知識を修得する。 それにより、建築物の財産的価値の重要性を認識できる視点を養う。							
授業形式	講義: △		演習: ○		実習:		実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○	○				宅建業の業務内容と役割について宅建業法の条文規定を用いて説明できる		
	○	○				宅地建物取引士の実務における重要事項を条文規定を用いて説明できる		
	○	○				民法の権利義務関係について、小テスト・模擬テストで平均正答率60%以上を出すことができる		
	○	○				不動産取引手続きに関する問題について、小テスト・模擬テストで平均正答率60%を出すことができる		
					○	全国模擬試験で全国平均以上の点数が取れる		
テキスト・教材 参考図書	出る順 宅建士 ウォーク問過去問題集2018年版①～③ 【東京リーガルマインド】							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	用語の定義／免許制度／宅建士制度					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	2	営業保証金／保証協会／媒介契約等の規制					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	3	重要事項の説明／37条書面					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	4	8種制限／業務上の諸規制／監督・罰則					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	5	報酬／住宅瑕疵担保履行法					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	6	単元テスト					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問するなどで不明点を明らかにし、正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問して理解に努めること	
	7	制限行為能力者／意思表示／代理					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	8	時効／不動産物権変動／物権関係					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	9	抵当権／保証・連帯保証／連帯債務					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	10	債権譲渡／債務不履行と解除／弁済・相殺／売買					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	11	賃貸借／委任・請負／不法行為					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	12	相続					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	13	借地借家法					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	14	借地借家法					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	15	区分所有法／不動産登記法					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	16	単元テスト					正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどで不明点を明らかにし、正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問して理解に努めること	
	17	都市計画／開発許可制度					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	18	建築基準法(単体規定・集団規定)／宅地造成等規制法					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	19	土地区画整理法／農地法					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	20	国土利用計画法／諸法例					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	21	国土利用計画法／諸法例					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	22	単元テスト					正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどで不明点を明らかにし、正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問して理解に努めること	
	23	不動産取得税／固定資産税					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	24	不動産譲渡所得／登録免許税／印紙税／贈与税					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	25	地価公示法／不動産鑑定評価基準					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	26	住宅金融支援機構／景品表示法					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	27	土地／建物／統計					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	28	単元テスト					正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどで不明点を明らかにし、正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問して理解に努めること	
	29	全国模擬試験①					正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどで不明点を明らかにし、正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問して理解に努めること	
	30	全国模擬試験②					正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどで不明点を明らかにし、正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問して理解に努めること	
	評価方法	(1)単元テスト(2)模擬試験の点数で評価する 成績評価基準は、平均正答率 S(90%以上)・A(80%以上)・B(70%以上)・C(60%以上)・D(59%以下)とする。						
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
単元テスト		○	○				50%	
模擬試験		○	○				50%	
履修上の注意	難しい法律用語が多々出てくるので、用語の意味をその都度細かく確認すること							

科目名	数学ゼミⅡA									
科目名(英)										
単位数	1単位			時間数	15時間		担当者	吉田麻美		
実施年度	2019年度			実施時期	前期		実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	建築工学科 2年									
授業概要	建築の各学科において必要とされる、基礎的な数学スキルの復習と習熟を目指す									
授業形式	講義: △		演習: ○		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				1次関数の値の変化をグラフに表すことができる				
	○	○				1次関数と方程式の問題が解ける				
	○	○				1次関数の応用問題が解ける				
	○	○				図形の性質と合同性質を用いた問題が解ける				
	○	○				証明問題を解くことができる				
テキスト・教材 参考図書	オリジナル演習プリント									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	【演習問題】 1次関数 値の変化、変化の割合					解答出来なかった問題は必ず復習・解答の上再提出すること。 また、理解できなかった問題は質問事項を記入して担当教員に提出すること。			
	2	【演習問題】 1次関数 1次関数のグラフ問題								
	3	【演習問題】 1次関数 1次関数のグラフのかき方・式の求め方								
	4	【演習問題】 1次関数 1次関数と方程式(連立方程式)								
	5	【演習問題】 1次関数の利用 文章問題 まとめ								
	6	【演習問題】 図形の性質と合同 直線と角、三角形と角、多角形の角								
	7	【演習問題】 図形の性質と合同 三角形の合同								
	8	【演習問題】 図形の性質と合同 証明問題								
評価方法	(1)出席状況 (2)受講態度・意欲 (3)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。									
		言語情報		知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	出席状況					◎		60%		
	受講態度・意欲	○	○					30%		
	課題の提出	○	○					10%		
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする									

科目名	BIM専攻ⅡA(選択)										
科目名(英)	Building Information ModelingⅡA										
単位数	1単位		時間数		15時間		担当者		道脇 力		
実施年度	2019年度		実施時期		前期		実務家教員 担当科目		○		
対象学科・学年	建築系2年共通										
授業概要	・ARCHICADのチームワーク操作の習得。 ・課題の制作を通じた実践的な表現技術の習得。										
授業形式	講義:		演習: ○		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標					
				○		チームワーク機能を効果的に活用してモデリングを行うことができる。					
	○	○				課題に必要な情報収集を行うことができる。					
		○	○			ゾーンツールを使ってボリュームスタディができる。					
テキスト・教材 参考図書	木造住宅入力ガイド(グラフィソフト提供トレーニングドキュメント)										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	チームワークの概要、モデル入力「木造軸組①」					テキストを見て予習を行うこと				
	2	モデル入力「木造軸組②」データチェック					前回の復習を行うこと				
	3	課題:複合ビル「情報収集」					情報、資料収集を行うこと				
	4	課題:複合ビル「エスキス①」					情報、資料収集を行うこと				
	5	課題:複合ビル「エスキス②」					情報、資料収集を行うこと				
	6	課題:複合ビル「エスキス③」					情報、資料収集を行うこと				
	7	課題:複合ビル「制作①」					情報、資料収集を行うこと				
	8	課題:複合ビル「制作②」					情報、資料収集を行うこと				
	9										
	10										
	11										
	12										
	13										
	14										
	15										
評価方法	(1)出席状況 (2)受講態度・意欲 (3)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	
	発表・作品			◎				○			
	課題提出			◎				○			
履修上の注意	出席が60%に満たない場合は、単位を認めない。										